

「災害科学に関する最新研究成果の情報交換会」を実施しました（2020/9/18）

テーマ：東北大学と名城大学の連携
 場 所：オンライン

東北大学と名城大学が 2019 年 10 月 28 日に締結した包括連携協定に基づく活動の一環として、9 月 18 日（金）、東北大学災害科学国際研究所と名城大学自然災害リスク軽減研究センターが、共同でオンライン情報交換会を実施しました。2020 年 7 月 10 日に第 1 回を実施しており、今回が第 2 回となります。

開会の挨拶は当研究所の今村文彦所長から、閉会の挨拶は名城大学自然災害リスク軽減研究センターの小高猛司センター長よりあり、情報交換会では災害科学の分野の最先端研究が、両大学あわせて 4 件紹介され、20 名の参加者がありました。なお、本情報交換会には、民間企業（トヨタホーム（株）、（株）ミサワホーム総合研究所、プライム ライフ テクノロジーズ（株））も参加しており、情報交換会の後には、災害を意識した新しい街づくりに関する意見交換会も実施しました。

今回の情報交換会では工学の研究テーマが中心で、下記のような発表がありました。

「伝わる」を目指す災害科学と実践

佐藤 翔輔 准教授（当研究所 人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）
 津波ハザード評価及び被害予測

サッパシー アナワット 准教授（当研究所 災害リスク研究部門 津波工学研究分野）
 洪水氾濫数値解析による浸水域把握

橋本 雅和 助教（当研究所 災害リスク研究部門 環境変動リスク研究分野）
 都市の QOL 評価と防災への適用可能性

中村 一樹（名城大自然災害リスク軽減研究センター 理工学部社会基盤デザイン工学科）

※発表順



オンライン情報交換会の様子

文責：溝口敦子（名城大自然災害リスク軽減研究センター、地域・都市再生研究部門）

森口周二（地域・都市再生研究部門）